

釧路港国際バルク戦略港湾施設整備検討会が第3回インフラメンテナンス大賞優秀賞を受賞

北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所

インフラメンテナンス大賞は、日本国内の社会資本のメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として国土交通省他5省庁が連携した取組となっています。

この大賞に全国255件の応募の中、釧路港国際バルク戦略港湾施設整備検討会が「優秀賞」を受賞(大臣賞など受賞者は32件)し、釧路港における国際バルク戦略港湾の取組にまた新たな栄誉が加えられました。



令和元年11月7日授賞式の様子(国土交通省本省)

平成31年3月に我が国の飼料用穀物の流通に関し、重要なバルク貨物の荷役に利用する栈橋式岸壁が供用開始され順調にパナマックス船の入港が始まっています。当岸壁の重要性を考慮し、施設の長寿命化や効率的なメンテナンスを実現するため、設計時、施工時、維持管理計画書作成時において国、港湾管理者、民間が共同して構造や維持管理に配慮したことが評価されました。

具体的には、北海道の港湾施設として初となるステンレス被覆防食の採用や、床版にエポキシ樹脂鉄筋やCFRP(炭素繊維複合材)ケーブルをより線状にしたものを採用するなど、施設の長寿命化に関する技術を積極的に取り入れています。



新技術の積極的な採用

また、ジャケット本体の縦桁及び横桁の重防食に超厚膜エポキシ樹脂塗装を採用していますが、施設点検時の効率性や、弱点を作ること(被膜厚測定のための削り等)を避けるため、設置箇所と同じ環境下に暴露したテストピースを用い経時的な試験をすることや、ステンレス等の耐食性部材の採用を考慮した重点監視箇所を設定し、一般定期点検や詳細定期点検の肉厚測定を省力化するなど維持管理に配慮した工夫を多数採用しました。



維持管理に配慮した工夫の採用

これらにより、イニシャルコストは多少高くなりますが、ランニングコストを抑えることにより、トータルのライフサイクルコストとしては安価にすることができました。

今回の受賞は、この国際バルク戦略港湾の施策に関わった多くの職員(国・港湾管理者)、技術者、工事関係者等の創意工夫の結晶だと思いますので、この紙面をお借りし感謝申し上げます。

この大賞の目的にもありますインフラメンテナンス技術の向上、理念の普及等に今後とも励んで参りたいと思いますので、引き続き協力よろしくお願ひします。